



60歳を考える：富士山、成都、共用基準範囲

検査部部长 康 東天

60歳も過ぎて体力の衰えを感じて、今年は一念発起して夏休みを取り富士山単独登山に行って来ました。登り始めて最初に驚いたのは、どう見ても私より年齢が上だろうと思える人が登山者の3分の1くらいはいて、年齢を理由に登山を決意した自分の考えが実は甘えに過ぎないと出だしから痛感した次第です。下りで少し休んでるときには、登ってきた90歳で10回目だという女性と出会い、簡単にできる足の筋肉増強トレーニング法を教わったり、体力の低下は年齢ではなく日ごろの不摂生のせいだと、これまた痛感した次第でした。

高山病を防ぐために5合目で1-2時間体を慣らすことが推奨されていますが、到着後すぐに登り始めました。登りはずっと濃い霧で、かえて日差しに体力を奪われることもなく、高山病の症状もなく、至極順調に登ったのですが、8合目の山小屋で、リュックがぐっしょり濡れていて、霧とは水滴であるという当たり前のことを思わぬところで実感しました。物の実体は後になって違うところで分かるものなだと、変に納得しました。翌朝は夜中の2時に出発し、今度は快晴で星もきれいで、運よく頂上で日の出も見ることができました。



富士宮口頂上からの日の出(右端が筆者)

その1か月後、招待されて中国の成都で中国全国から参加した検査関係者に日本の基準範囲の標準化活動(共用基準範囲)について講演しました。いわゆるガイド付き1日市内観光コースを見て回る機会もありました。成都をご存知の通り三国時代の諸葛孔明で有名な蜀の国の首都です。私が好きな詩人杜甫は安祿山の乱を逃れることから始まった彼の長い国内流浪にあって、珍しく4年も成都に滞在し精神的にも比較的安定した時期を過しています。彼の詩作の7割はここで行われたとのガイドの説明がありました。

そのガイドさんによると実は成都はチベットへの出発地で、チベットへ行くには公的にはここでの許可証が必要とのことでした。チベットをご存知のように標高が3000mを越す高地です。そのガイドさんはチベット旅行のガイドをすることもよくあるそうで、成都から旅行すると高山病にかかる人が多いのですが、高山病症状を出すのは若い人ばかりで、60歳以上で症状を出す人を見たことがないと言いました。一か月前に富士山に登って高山病症状もなかったことを思い出して何故ですかと尋ねると、年寄りには酸素がたくさんは要らないからでしょうとあっさりと言われて、やはり生理学的にはそうかと、これまた変に納得したりしてしまいました。

さて、それらはさておき、中国での基準範囲の講演が功を奏したのか(?)1週間ほど後に、ある中国の中核的の大学から検査の標準化について息の長い共同事業のようなものをお願いしたいとの話がありました。もちろん、喜んでお引き受けしようと思っています。日本を追いかけるように中国も高齢化が急速に進んでいます。このような状況で日本の共用基準範囲に60歳以上の高齢者データがないのが今後の大きな課題となっています。中国と一緒にこの問題が解決できれば大変うれしいと期待しているところです。

《今号の紙面》

60歳を考える……p.1

山行知……p.2-4

検査部旅行……p.4-5

鉄分検査室……p.6-10

成人のワクチンのはなし……p.11

編集後記……p.12



山行知(さんこうち)

第3回 洗谷コースからの井原山とオオキツネノカミソリ

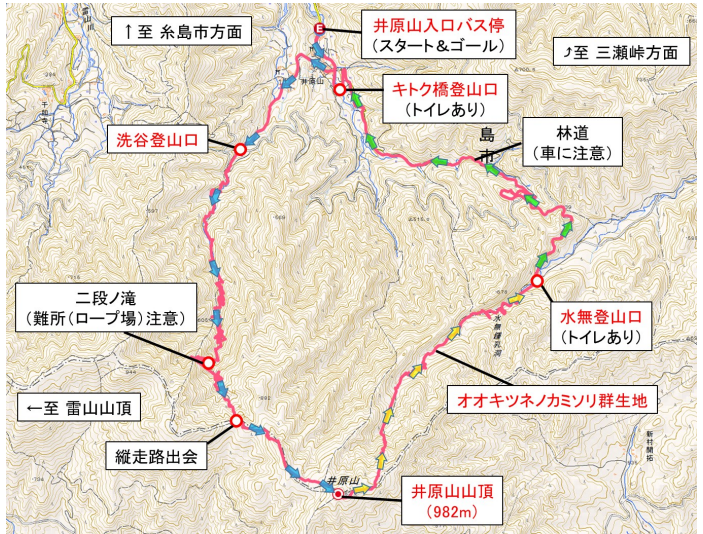
大魔王YJ



前回の山行知では、コバノミツバツツジを求めて井原山から雷山まで縦走したことをお届けしましたが、なんと！今回も井原山に行った～(^^♪ 余談ですが、筆者はこの原稿を書いている9月初旬の時点で、井原山に今年4回(3月、4月、7月、8月にそれぞれ1回ずつ)行ってました～!(^^)! 井原山は季節ごとにいろんな表情を見せてくれて、すごく魅力あるお山なのでご容赦くださいね。

さて、今回ご紹介させていただくのは、巷で上級者コースと呼ばれている洗谷コースからの井原山登頂と、夏真っ盛りの7月下旬から8月上旬にかけてしか見ることのできないオオキツネノカミソリの群生です。

まず洗谷コースはどんなコースかと言いますと、基本は沢沿いを歩くコースで、稜線に辿り着く前に、何度も何度も渡渉(川を渡ること)を繰り返します。雨天後、沢が増水しているときなどは特に注意が必要です。さらに、幾つもの滝があったり、ロープを頼りにして攀(よ)じ登る岩場があったりと、なかなかスリリングな面白いコースです(^_-)☆ なので、初心者は一人では行かない方がいいかもしれません(;▽;) 今回のメンバーは5人でしたが、全くの初心者は2人だけだったので、安心して行くことができました\(^o^)/



洗谷コース



オオキツネノカミソリ

さて、次に説明しなくちゃいけないのは、オオキツネノカミソリです。これは、実はお花(植物)の名前なんです。漢字で書くと、『大狐の剃刀』となります。ヒガンバナの一種ですが、ヒガンバナとは咲く時期が異なり、花びらよりもオシベとメシベが長いのが特徴です(オシベ、メシベが花びらよりも短い、『大』の文字が付かない『キツネノカミソリ』も存在します)。

そして、井原山は、このオオキツネノカミソリの西日本最大の群生地と言われています。昨年の夏、初めて満開に咲き誇ったオオキツネノカミソリの群生地を訪れましたが、それはもう見事というしかありませんでした\(^o^)/ ぜひこの感動をほかの人にも伝えたい！ということで、数名の仲間たちと見に行ってきました。

7月下旬の某日、朝8時前に登山口となるキクク橋の駐車場に到着しましたが、すでに満車で、駐車場の入り口付近からは路駐の車で溢れかえっていました(°Д°) さすがにこの時期はオオキツネノカミソリを見に行く人が多く、こうなっていることは予想していましたが、この駐車地は早々に見切りをつけて、その下側にあるバス停そばの広場に車を止めました。

今回のコースは洗谷からなので、最初しばらくは、のんびりと林道を歩きます。30分ほどで洗谷の登山口に到着です。

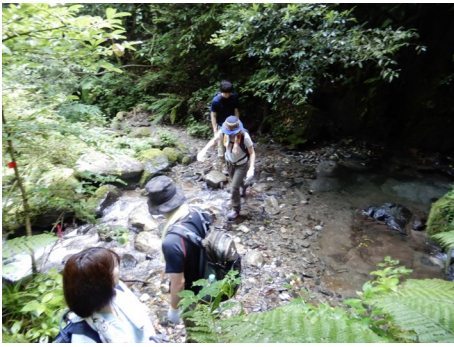
登山口には、あえて『上級者向き』と書かれた標識が立っています。ここで怖気づいてはいけません！筆者はこのコース2度目でしたが、前回ハラハラ・ドキドキしながら進んでいった記憶がよみがえってきました(*^^*)



洗谷コース(上級者向きの標識)

7月下旬の暑い時期ではありますが、コースは樹林に覆われた沢沿いのため、涼しく気持ち良く歩けました。また、何度も渡渉を繰り返すうちに、川に足が浸かってしまうこともあります。ゴアテックスの登山靴を履いているため、そんなことは全くに気になりません。快適な登山のためには、使う道具にもこだわりを持ちたいですね～☆

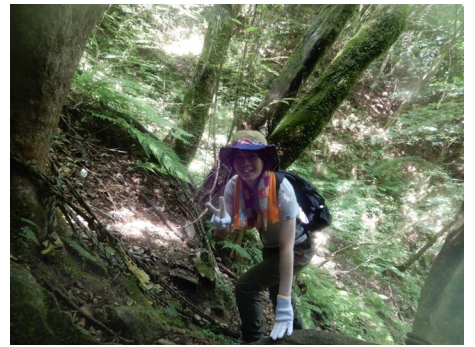
この洗谷コースは、しっかりと3点確保して通過する箇所や、虎ロープを張ってある箇所、岩を攀じ登る箇所、そして、マムシにも遭遇したりして、ホントにスリリングでした～\(@o@)/



何度も渡渉を繰り返す



途中、こんなロープ場もあります



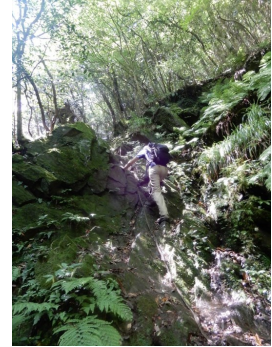
無事に難所をクリアして一安心♡



滝は何ヶ所もあります



マムシに注意！



滝の横を攀じ登る

今回、筆者は1つだけ反省点がありました。帽子のツバが視線の先を塞いで、コースに突き出た木の枝に気づかず、真正面から頭部をぶつけてしまいました。目ん玉が飛び出すほどの痛さでした。これを読まれた皆様はご注意ください。

登山口から稜線(縦走路)に辿り着くまでに3時間強かかりました。そこから約30分で井原山の山頂に到着です。山頂の気温は26℃でめちゃめちゃ涼しかったです!(^^)! ここでしばし休憩とし、ランチにしました。今回、重いけれども担いで運んできたのは、ノンアルビール! 山で飲むとサイコーに美味しい!!! そしてデザートは、凍らせて持ってきた桃の缶詰です。疲れた身体には超おいしかったです♡



井原山山頂(983m)



山ポーズ!

ちょっと長めの休憩後、山頂をあとにしましたが、後半戦は、いよいよオオキツネノカミソリとのご対面です。どのくらい咲いているのか楽しみで仕方ありませんでした。



オオキツネノカミソリ群生地

群生地に辿り着くと、8分咲きほどでしたが、昨年と同じように感動することができました。来年も改めてここに来るよ!と素直に思いました。ただし、来年は、この群生地に最短で行ける水無登山口からにしたいと思ったのは、私だけではなかったはずです…。なぜなら、今回の活動時間は8時間44分(休憩込み)、活動距離は13.69km、累積標高は1,584mとかなりハードでした(^^ゞ そのため、最後はみんなの疲れ具合を踏まえ、予定を変更して林道を歩いて駐車地に戻ることになりました。

帰りの車の中では、約1名、疲れ果てて爆睡していました(笑

同行者の感想

★MTさん・・・井原山はいいところ！

井原山洗谷ルートは「上級者コース」と聞いていたので、その上、真夏の登山とは…。途中リタイアもあるかも？と、かなり不安な気持ちで参加しました。ロープを使って登るところもありましたが、なんとか挫けずに登頂できました。日陰で川の近くを通るコースだったので暑くもなく、意外にも気持ちよく登ることができました。今回の目的地は「オオキツネノカミソリ群生地」、見渡す限りオレンジ色の花が満開でとても綺麗でした。こんな山奥のこのエリアだけに群生しているのが不思議なのですが、見ることができて良かったと思えるような場所でした。今回は、オオキツネノカミソリを見れたことと山頂でのビール(ノンアルコール)が美味しかったことが心に残る、楽しい山登りでした。

★MAさん・・・絶景&納涼の井原山登山

今回の登山は夏らしい晴天でのスタートでした。暑さが心配でしたが、洗谷ルートは木陰の下をたくさんの沢に囲まれながら歩くのでとても涼しく、道中の景色も最高でした。見頃のオオキツネノカミソリは下山途中でお目にかかることができました。鮮やかなオレンジ色で彼岸花に似た形をしており、辺り一帯に咲き乱れている贅沢な光景をメンバーで長々と堪能しました。大魔王さん曰く、昨年の方がもっと咲いていたそうですが、今回も十分綺麗でした。笑 最後に立ち寄った水無鍾乳洞で予想以上の冷たさに感動した後、ゴールしました。終始魅力の尽きない登山でまた訪れたいと思いました。



お疲れグリコ！

検査部新人歓迎登山

～九重の山を登って～

(文：検査部・研究室新人)



2017年7月23日(土)九大検査部 新人歓迎会登山の日、総勢23名で大分県九重にある九大山の家へ行きました。今年の登山は真夏に開催の為、照り付ける日差しと脱水にビクビクしながらも当日は曇りっ！今まで登山経験の無い新人ばかりで先輩方について行けるか不安ばかりでした。7時30分過ぎにバスに乗り込み(別の場所でバスが待機してしまうハプニングがありつつも)九重を目指して出発！途中基山サービスエリアで休憩し、インターチェンジを降りたら綺麗な緑と連なる山々！バスはさらに山奥に進み九大山の家に着。荷下ろしを済ませます。



「一目山」山頂を目指して

準備体操が終わったら「一目山」目指して出発！初めての登山経験者もいる中、山頂を目指して急勾配な山道を進んで行きます。40分ほど歩いて山頂に到着～。山頂からの景色は抜群！（ここでは曇っていたのが残念）ここでお昼ごはんを食べました。山頂で味わうおにぎりの味は一段と美味しく感じました。食事と休憩がすんだら次の目的地はみそこぶし山へ、数名は山の家へ戻るためここでお別れです(涙)程なく歩いて遠くから見える山頂には誰かがずっとこちらを見ているような気がします…。いったいあれは？山頂で合流したのは副技師長でした。副技師長から塩飴と水分を頂きました。生き返りました！

登山を堪能してこれからいよいよ下山です、体力を消耗している中、気を抜いたら滑り落ちそうな所ばかりの足場を踏ん張って下ります。技師長から梅干しの差し入れがあり、ここでも失った気力と塩分を補充！！膝が笑いながらも無事登山出口に着きました。ここからさらに山の家までひたすら歩きます。山道より舗装路を歩く方がキツク感じました。帰ったら夜はお楽しみのバーベキュー！そう考えると足取りが軽くなりました。初めての事ばかりで不安一杯でしたが、振り返ってみたら、山を自分の力で登れた達成感で満ちていました。



「一目山」山頂にて 皆さんの笑顔が素敵です。



「みそこぶし山」山頂にて 笑顔が少ないような…。

☆☆

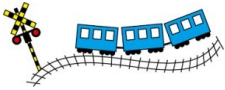
山登りから戻った後は、待ちに待ったバーベキューです。私たち臨床検査医学室の新人4人は、食材準備係として分かれてとりかかりました。前日に調達していた食材をバーベキュー用に準備する中で、一番苦労した人は、大量のニンニクとタマネギを刻む森崎さんと十島さんでした。ある時は小さなニンニクに刃がたたず、またある時は転がるニンニクを追いかけ、ある時は吸血鬼の心境がわかると話し、ある時は涙ながらにタマネギのみじん切り話をしていた姿が印象的でした(笑)。そして、日ごろ言葉を交わす機会の少なかった松島さんが、網焼きの手順を説明しながら、目をキラキラさせてその美味しさを語る様子や、安川さんが意外にも(?)料理が得意で上手だという某富君からの話や、虫取り網二刀流をさりげなくやってのける瀬戸山さんを目の当たりにした某T島君の話を聞いて、先輩方々の研究室で見せている姿とは違う一面を知ったようで、とても新鮮に感じました。そしてなによりも、このバーベキュー1番の機転の利いた采配者は、バーベキューの場所を屋外からピロティへ変更した幹事さんでしょう。山系初心者の私は、午後から陽が陰ってきていても、曇るくらいかな・・という程度の考えしかありませんでした。しかし、今回の幹事さんの早期判断・早期移動のおかげさまで(感謝)、全員そろっての乾杯の時、あのバケツをひっくり返したような大粒の雨と雷に打たれた人は、皆無！でした。もし、あのまま場所を変更せずに、空の下でバーベキューを始めていたら、火も消え、肉も冷め、ビールの水割りを飲む事になっていたでしょう。幹事さん、私たちのためにありがとうございました。



豪快に食材を焼いていきます！



帰宅前に九大山の家の前で撮影。



このところ佐世保線や大村線の車窓から佳境に入った長崎新幹線工事の様子を目にする事ができる。コンクリートの高架橋やトンネルが次第に姿を現してきている。



大村線竹松駅・新幹線工事

ちょうど九州新幹線開業前夜の鹿児島本線の車窓から見えていた風景と同様の風景が展開している。その頃目の前に姿を見せつつあった九州新幹線完成後の鉄道風景は今一つ実感の無いものであった。ところが今では、〈つばめ〉、〈さくら〉、〈みずほ〉が九州新幹線内を走りまわって、九州の南北の時間距離が縮小している。

平成23年(2011)3月12日の九州新幹線全通に合わせ当日ダイヤ改正が行われた。前日まで博多・長崎/佐世保間に3階建て列車が走っていた。〈かもめ〉〈ハウステンボス〉〈みどり〉の3階建て列車である。博多を出た3階建て列車は、まず肥前山口で〈かもめ〉が解結され、長崎へ向かう。〈ハウステンボス〉〈みどり〉は、佐世保線に入る。そして早岐(はいき)で、両者が解結され、〈ハウステンボス〉は大村線に入りハウステンボスへ、〈みどり〉は佐世保へ向かう。この時のダイヤ改正で3階建て列車は廃止された。〈ハウステンボス〉〈みどり〉の2階建て列車は今も健在である。

3階建て列車の最後の日、3階建て列車は終日走ることは無かった。列島全体に大津波警報が発令され〈かもめ〉が運休となったからであった。東日本大震災の鉄道への影響は恐るべき事に全国に及んでいた。

ところで〈ハウステンボス〉〈みどり〉の2階建て列車は、早岐で解結し〈ハウステンボス〉はそのまま大村線へ入っていく。一方〈みどり〉は、スイッチバックで逆走し佐世保へ向かう。「一体それはなぜ？」(TV東京系〈美の巨人たち〉の小林薫調)。



黒澤明監督の最後の作品は、平成5年(1993)の〈まあだだよ〉である。主人公は、内田百閒(ひゃっけん)先生で、門下生との交流が描かれている。

その内田百閒先生は「阿房列車」で知られ、〈文藝春秋〉昭和29年(1954)1月号に「長崎の鴉 長崎阿房列車」を掲載した。

長崎へ行こうと思う。

行っても用事はないが、用事の有る無しに拘わらず、どこかへ行くと言う事は、用事に似ている。だから気ぜわしない。(中略)

今度の汽車は、長崎行二三等急行、第三七列車「雲仙」である。(中略)

肥前山口で又長崎本線から岐れて佐世保線に這入り、武雄駅で後部に補助機関車をつけた。(中略)

その早岐で佐世保線から岐れて大村線に這入り、大村線の沿岸を走り出した。(中略)

そうして諫早で又もとの長崎本線に戻り、まだ明るい四時四十五分、定時に長崎に着いた。

百閒先生乗車の長崎行急行「雲仙」は長崎本線全線を走って長崎へ向かわず、佐世保線に入り大村線経由で長崎へ向かっていた。

長崎本線の前身は、九州鉄道佐賀線である。まず明治24年(1891)8月20日に鳥栖・佐賀間が開業した。その後徐々に両端から線路が伸び最後に残った大村・長与間が繋がり明治31年(1898)11月27日鳥栖・長崎間が全通した。ただし初代の長崎駅は、現在の浦上駅であった。明治38年(1905)4月5日現長崎駅が延伸開業し、旧長崎駅は浦上駅に改称した。

その後九州鉄道が国有化され長崎本線と改称した。この最初の長崎本線は、鳥栖・肥前山口・早岐・大村・諫早・長与・長崎という大村湾岸を走る経路であった。

一方昭和5年(1930)3月9日に有明海沿岸を走る有明線肥前山口・肥前竜王間が部分開業した。その後有明線は昭和9年(1934)12月1日に肥前山口・諫早間が全通し、それと同時に有明線が長崎本線に編入され、肥前山口・早岐間が佐世保線、早岐・大村・諫早間が大村線となった。

また明治31年(1898)1月20日早岐・佐世保間が開通した。国有化後長崎本線の名称ができた時の佐世保線は早岐・佐世保間のみの線区であった。有明線の長崎本線編入の時に、肥前山口・早岐間が佐世保線に編入され、現在の佐世保線の姿が誕生した。

百閒先生乗車の大村線経由の急行「雲仙」は、旧長崎本線の筋を運行していたのであった。由緒深い経路だったのである。

2階建て列車<ハウステンボス><みどり>が早岐で解結し、<みどり>がスイッチバックで佐世保へ向かうのは、先に開通していた旧長崎本線から後に佐世保線が分岐したからであった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<ハウステンボス>は、早岐から大村線に入りハウステンボス駅に至る。大村線は早岐・ハウステンボス間のみ電化され、ハウステンボス・諫早間は非電化区間である。



ハウステンボス駅・早岐瀬戸



針尾島から早岐瀬戸越しにみる博多行き
<ハウステンボス>

下りくハウステンボス>に乗車しハウステンボス駅が近くなると右手に川のような風景を目にする。ぼんやり見ていると川と思い込んでしまいが、実は海水が流れている早岐瀬戸である。大村湾は湾口を針尾島に押さえられ針尾島の東側が早岐瀬戸で西側が針尾瀬戸で、佐世保湾を介して外洋と連絡している特異的な閉鎖性の高い内湾である。このため干満の差が小さく穏やかな海面の表情をしている。頼山陽は、それを評して「琴の湖(うみ)」と名付けた。

ハウステンボス駅の長崎方の隣駅が南風崎駅である。有名な難読駅の一つで地元の人でないのに読める人は、鉄分高値な人の確率が高い。「はえのさき」と読む。普通列車のみ停車する無人駅であるが、かつて大変な人々の往来があった。



南風崎駅



南風崎駅駅名標

戦後外地からの引揚者・復員者のための受け入れ港の一つとしてとして、針尾島西海岸の浦頭(うらがしら)が選ばれた。海軍病院分院があり、これを佐世保引揚援護局検疫所とした。最初の船は昭和20年(1945)10月14日入港の10隻の米軍揚陸艦で、朝鮮半島から9,974人が帰還した。浦頭検疫所でDDTが着衣のまま散布された。船内でコレラなどの伝染病の発病者がでたら、すぐには上陸できず船内待機を強いられた。検疫が終わると東海岸にある海軍兵学校針尾分校が佐世保引揚援護局の宿舎に充てられ、浦頭から約7kmの起伏のある針尾島を東西に横断する道を徒歩向かった。援護局に着くと帰国の手続きや聞き取り調査などが行われた。上陸名簿作成、引揚者証明書作成等の事務作業が徹夜で行われた。この援護局があった場所が現在のハウステンボスである。

平成4年(1992)開業のハウステンボス駅は当時まだ無く援護局最寄りの駅は、南風崎駅であった。この駅から合計1,316,927人が故郷へ向かった。昭和21年(1946)には、一日に南風崎発品川行き、大阪行き各1本、門司行き1本、門司港行き1本の引揚列車が出ていた。車両不足で無蓋貨車や有蓋貨車も用いられた。南風崎駅から戦後の人生を歩み始めた人々が大勢いた。その中には森重久弥や赤塚不二夫もいた。

今も浦頭の引揚棧橋は現存している。その棧橋を見降ろす丘の上に浦頭引揚記念平和公園があり、その敷地内に引揚記念資料館がある。既に戦後も遠くなり引揚者本人より引揚者の子や孫が引揚の状況を調べるために訪れる事が多くなっている。

浦頭引揚記念平和公園の一面にバタヤンこと田端義夫のく
かえり船>の歌碑がある。清水みのる作詞、倉若晴生作曲のこの歌は、昭和21年(1946)に発表され大ヒットした。



南風崎駅引揚列車説明版

♪ 彼の背の背に 揺られて揺られ
月の潮路の かえり船
霞む故国よ 小島の沖じゃ
夢もわびしく よみがえる

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

慶長十四年(1609)平戸にオランダ商館が設置された。寛永十八年(1641)長崎の出島に移された。オランダ商館長は、書記官や医師等を引き連れて江戸参府を行っていた。寛政二年(1790)以降は江戸参府は4年に1回定期的に行われていた。

文政九年一月九日(1826年2月15日)出島からオランダ商館長一行が江戸参府に出発した。初日は諫早(いさはや)に宿泊。2日目は諫早から大村を經由し彼杵(そのぎ)に宿泊。3日目は彼杵から嬉野を經由し塚崎(武雄)宿泊。江戸には55日目の三月四日(4月10日)に到着した。92日目の四月十二日(5月18日)江戸を出発し142日目の六月三日(7月7日)出島に帰着した。

一行は大村湾の景観を楽しみながら江戸往還をはたした。この時のオランダ商館長付の医師はシーボルトであった。シーボルトも大村湾の景色や武雄温泉の湯を楽しんでいる。

われわれは大村湾に望む港町彼杵に泊まった。ここからは大きな湾に望む広々とした景色を楽しむわけであるが、かつて(一六六一年)寛文元年江戸参府の旅行中この海を渡るのが普通であったオランダ人が、この湾を大村湾と名づけた。 <江戸参府紀行>

出島から小倉への彼らの経路は長崎街道であった。小倉の常盤橋を起点として二十五宿、五十七里の街道であり、長崎からの物流と情報はこの街道を通して江戸に通じていた。

現在長崎新幹線工事が武雄温泉駅・長崎駅間で行われている。新幹線駅として武雄温泉駅・嬉野温泉駅(仮称)・新大村駅(仮称)・諫早駅・長崎駅が開業予定である。この経路はまさにシーボルトも歩いた長崎街道にほぼ並走するものである。

長崎駅は、駅に隣接していた長崎車両センターを早岐に移転させてできた場所に移転建設される。これに合わせ長崎市内の地上線の在来線も高架化されることになっておりその工事が現在大々的に行われている最中で長崎駅周辺の鉄道風景が激変しつつある。後数年すると地上駅の長崎駅が思い出となる。



長崎駅・稲佐山



新長崎駅工事

武雄温泉駅は新幹線乗り入れを見越して既に在来線が高架化されておりその高架線の横に新幹線駅の工事が始まっている。

諫早駅も移転せず新幹線駅工事が行われていて、新幹線駅ビルの鉄骨が組み上がりつつある。



武雄温泉駅長崎新幹線工事

長崎新幹線は、2022年度に開業する予定である。当初の計画では博多から長崎への新幹線は、九州新幹線博多・新鳥栖間を走り、在来線で長崎本線新鳥栖・武雄温泉間を走り、再び長崎新幹線武雄温泉・長崎間を走ることになっていた。ところが軌間の異なる新幹線と在来線を同一列車で乗換えなしで走らせるために軌間可変列車フリーゲージトレイン(FGT)の開発が行われていたが開業に間に合わない事が明らかになった。このため、開業時は博多・武雄温泉間は在来線となり、武雄温泉駅で新幹線乗換えのリレー方式となりそうである。九州新幹線新八代・鹿児島中央間が開業した際、鹿児島本線<リレーつばめ>と九州新幹線<つばめ>が、ホームで対面して平行移動で乗換えるようになっていた。それと同じ乗換えが武雄温泉駅で行われることになる。

問題はフリーゲージトレインが当初の最高速度270km/hで開発できたとしても、山陽新幹線の最も遅い列車でも最高速度は285km/hでダイヤ編成に支障が出、しかも軌間可変装置の分車両が重たく線路への負荷もあり、JR西日本はフリーゲージトレインの乗り入れを拒否していて、九州内のみの運行になる見込みである点である。

そこで新鳥栖・武雄温泉間にも新幹線を引くべきだという意見が出てきている。その場合、佐賀県に膨大な負担がかかることになり佐賀県は否定的である。

もう一つの案は、山形新幹線や秋田新幹線のようなミニ新幹線案である。ミニ新幹線区間の在来線区間を、1,067mmから1,435mmに改軌し、新幹線列車を乗入れさせるもの。

リレー方式での博多・長崎間の所要時間は、現行最速で1時間48分のところ1時間26分の見込みである。またフリーゲージトレイン導入では1時間20分の見込みである。全線フル規格新幹線では55分の見込みである。もちろんこの場合山陽新幹線との相互乗入れが実現し、新大阪から佐賀や長崎への直通列車が走ることになる。

長崎新幹線の最終形の行方は、……

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



太宰府天満宮麒麟像

太宰府天満宮境内に麒麟像がある。

グラバー邸で知られるグラバーは、安政六年(1859)に21歳でジャーディン・マセソン商会に雇われて長崎に来日し二年後にジャーディン・マセソン商会の長崎代理店として独立しグラバー商会を設立した。南山手三番地に文久三年(1863)に大工棟梁・小山秀之進によりグラバー邸は建てられた。日本最古の洋風木造建築である。幕末の磁場の一つを形成した。

しかし明治維新後グラバー商会は倒産し、グラバーは東京に移り三菱の顧問となった。そこで国産ビールの製造に関わっている。そのビールの商標の麒麟の意匠は太宰府天満宮の麒麟像に由来しているという話がある。創業者のグラバーを讃えて彼のトレードマークの口髭が麒麟の図像に描きこまれている。

このグラバーは、日本の鉄道史にも登場する。

グラバーは元治二年三月十七日(1865年4月12日)長崎の大浦海岸で蒸気機関車アイアン・デューク号を走らせた。軌間は762mmで線路を500mほど敷いて走らせた。おおよそ長崎電気軌道大浦支線市民病院前・大浦海岸通り間辺りを蒸気機関車が走ったようだ。

現在長崎みなとメディカルセンター前に「我が国鉄道発祥の地」の碑が設置してある。長崎市民病院が改称したもので電停名は市民病院前のままである。

東海道新幹線が還暦を迎えようとする頃に、日本で初めて鉄道が走った地に新幹線がようやく姿を見せようとしている。



我が国鉄道発祥の碑

成人のワクチンのはなし

検査部/免疫・膠原病・感染症内科 西田 留梨子



そろそろインフルエンザの季節にさしかかり、まだインフルエンザワクチンを接種されていない方には、早めの接種をお願いする時期になりました。そこで、今回はワクチンのお話を簡単にさせていただきます。

インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチン

インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンは、成人で接種する機会の多いワクチンです。インフルエンザワクチンは、基礎疾患(糖尿病なども含む)がある方や乳幼児、高齢者では、重症化しやすいので特に接種が推奨されています。

肺炎球菌ワクチンは、平成26年から高齢者を対象とした定期接種が開始されましたが、対象年齢が限定されている点や、認知度として不十分な点もあり、まだ接種されていない方が多くいます。肺炎球菌ワクチンにも複数種類ありますので、どのワクチンをいつ接種するか、かかりつけの先生と御相談下さい。

インフルエンザワクチンは有効？

“接種してもインフルエンザにかかる。ワクチンは有効なの？”という話を、患者さんやスタッフから良く聞きます。ワクチンには、接種して抗体価がある間は、発症をある程度確実に予防できるワクチン(麻疹や水痘ワクチンなど)と、接種してもその感染症にかかる可能性のあるワクチンがあり、インフルエンザワクチンも肺炎球菌ワクチンも残念ながら後者に含まれます。現在のワクチンでは、全てのタイプのインフルエンザウイルスや肺炎球菌をカバーできないので、ワクチンに含まれないタイプに感染すると発症してしまうこともあれば、ワクチンでカバーされているタイプでも、ウイルスや細菌の感染症を起こす力が強く発症してしまうこともあります。確かに、100%予防できるわけではないですが、予防できる、あるいは発症しても軽症ですむ可能性は高まりますので、やはり接種をお勧めしています。

まわりの人のためにワクチンを打つ

ワクチンには自分の感染症を防ぐという目的に加えて、皆が免疫をつけて発症しないことで、家族、地域、国全体での感染症を防ぐ“集団免疫”という目的があります。特に、ワクチンを接種できない方では、周囲の予防が重要です。代表例が妊婦の風疹ワクチンです。風疹は妊婦が罹患すると胎児に先天性風疹症候群という様々な影響を与える感染症ですが、妊娠に風疹ワクチンを接種することはできません。妊娠前に予防接種をすることが一番ですが、妊娠後に抗体価が低いと分かった場合には、家族が予防接種を受けて予防に努めることが大切です。風疹以外の全てのワクチンにも“集団免疫”の考え方があてはまりますし、妊婦以外でも、ももとの病気の治療によっては受けられないワクチンがある方もいます。“集団免疫”という意味でも、ワクチンで予防できる疾患は予防することが重要です。

ワクチン以外の予防法も大切

ワクチンだけでは100%予防できないようなインフルエンザでは、ワクチン接種に加えて、手洗い、うがいなどの、とにかくウイルス自体をもらわないための予防法がとても重要です。これからの季節、ワクチンと手洗い・うがいできしっかりと予防しましょう！

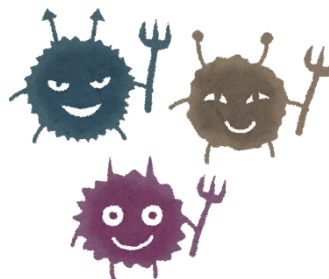


検査部からのお知らせ

● 細菌検査 酵母様真菌薬剤感受性検査の薬剤追加について

2017年9月1日(金)より酵母真菌薬剤感受性キットASTYが改変され、従来の報告対象である7薬剤に加え、カスポファンギン(CPFG)が新たに追加されました。全8薬剤は以下の通りです。

- ・ミカファンギン (MCFG)
- ・**カスポファンギン (CPFG) ← 新規追加薬剤**
- ・フルシトシン (5-FC)
- ・フルコナゾール (FLCZ)
- ・ミコナゾール (MCZ)
- ・イトラコナゾール (ITCZ)
- ・ポリコナゾール (VRCZ)
- ・アムホテリシンB (AMPH-B)



● 細菌検査 脳脊髄液用滅菌スピッツの変更について

2017年8月21日(月)より、脳脊髄液用の個包装滅菌スピッツが変更となっています。

新しい容器では包装の上下に切れ目があり、従来品よりも開封しやすくなります。

SPD番号は、2291114です。発注はSPDにて各部署にてお願いいたします。

	旧	新
容器外観		
包装単位	20本 / 1袋	20本 / 1袋



問合せ先：細菌検査室

内線 5757

編集後記

天高く馬肥ゆる秋 皆さんも山に行かれてはいかがでしょう？ ついに富士山登頂、井原山登頂、検査部旅行でも一目山登り、検査部では空前絶後の登山ブームです。最近では山ガールもブームになり、某国営放送では山女日記～女たちは頂を目指して～なるドラマも制作されています。リフレッシュするには最適ですね。長崎新幹線できると便利になりますが、鉄分検査室の今後の調査もよろしく願います。検査ガールも流行語にしたい今日この頃です。

内海健